



難しい部分

これまでどのくらいの数を製作されましたか。また、1丁作るのにどのくらいの日数がかかりますか。
5年ほど前から作っていますが、短筒で51丁、長筒で20丁弱ほど作りました。希望があれば有償でお譲りしています。
初めのころは、部品ひとつにも相当時間がかかったので、1丁作るのに3ヶ月ほどかかりましたが、今は1丁あたり1ヶ月ほどで製作できるようになりました。



本物そっくりに作られています

このような製作は自由にできるのでしょうか。

いいえ、日本では銃を作ることは認められていません。私は筒の部分の穴を全部開けないことでレプリカとして製作しています。

つまり、正確には私の製作しているものは「銃」ではなく、「玩具」ということです。

それにしても、細かな部品がたくさんあって、製作するのが大変そうですね。



竹内 修さん

新城市大野在住。

時計店を営むかわら、5年ほど前から火縄銃のレプリカを製作。戦国の技術を現代に蘇らせている。

訪問日：平成28年12月1日

取材者：環境保全課 尾崎・山本

本日は、新城市大野で火縄銃のレプリカを製作している竹内修さんと、鳳来寺東照宮の寅童子を製作している奥様の久美子さんにお話を伺いました。

竹内さんは火縄銃のレプリカを作っているらしいですが、どのようなきっかけで火縄銃を作るようになったのですか。

新城市の設楽ヶ原歴史資料館にある火縄銃を見たり、長篠のぼりまつりの火縄銃の実演などを見ているうちに自分でも作ってみようと思いました。また、長篠の火縄銃保存会のメンバーに知り合いがいたので、本物の火縄銃を借りて、部品の寸法をかたどって一つずつ部品を作って完成させました。

誰かに教えてもらったり、図面や文献を見たりということはなく、すべて自分で作られたのですか。

火縄銃の作り方を書いたものを見たわけではなく、現物から寸法をとって作りました。銃身の筒の部分だけは自分で作れないため、知り合いの鉄工所で作ってもらいましたが、本体の木製の部分や引き金などの部品はすべて自分で作っています。

私はもともと時計屋をしていたので細かな作業は得意です。時計の部品に比べると、銃の部品は大きいので、私としては楽に作る事ができます。

私は古物商の免許も持っており、本物の火縄銃も商品として扱うことができますが、当時のものは細工もすばらしく、やはり本物を見るのが勉強になります。

取材中、奥様の久美子さんが寅童子を製作しているというお話があったので見せていただきました。

寅童子とは、鳳来寺東照宮が徳川家康ゆかりの寺であることから、寅年の家康にちなんで寅をかたどったものを護符として授けられていたものです。これの小型のものを製作して、現在鳳来寺東照宮で護符として販売しています。今年、商工会からの依頼で2000体ほど作りました。本体は主人やほかの方に協力して作ってもらっていますが、顔はすべて私が描いています。

奥様が作るようになったのはなぜですか。

部品から手作りなのでね。驚きました。製作で難しかったのはどの部分でしょうか。

作るのに難しかったのは、引き金のばねの部分です。ばねを銃身に固定するために、ばねに開けた穴に支柱を通すのですが、通したあとの支柱の頭がばねの部品と一体になるように作る必要があり、これがとても苦労しました。銃身の木製の部分は、サクラやカシなどの堅い木で作ります。新しい木では狂いが出るので、よく乾燥した木が必要です。知り合いの方が、古民家の解体で出る廃材などを譲ってくれるので助かっています。



実際の部品を真鍮こいて型を取る

かつては主人の親戚の方が作っていたのですが、その方が亡くなってから途絶えてしまったのを、再び作るようになったものです。

竹内さんご夫妻は、それぞれ自分の技術を生かして、伝統のものを今によみがえらせるお仕事をなさっていると感じました。

今後ますますご活躍いただき、永く伝統を伝えていっていただきたいと思えます。



寅童子